



Title	臨床哲学ニュースレター 第5号 目次
Author(s)	
Citation	臨床哲学ニュースレター. 2023, 5
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90059
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

臨床哲学ニュースレター

Vol.5

— 目 次 —

目次 (1)

【特集 1】 第5回臨床哲学フォーラム（シリーズ：あたらしい倫理学）

テーマ「人の生と研究をめぐる倫理」

第5回臨床哲学フォーラム

- 「人の生と研究をめぐる倫理」の特集にあたって 小西 真理子 (3)
ロボット発言事件を振り返って 堀江 剛 (5)
あらがう、りんしよう、てつがく ほんま なほ (9)
「理論の探求」と「事例」 土屋 貴志 (29)
第5回臨床哲学フォーラムへの感想文「研究が人を傷つけてしまうこと」 Trin (38)

【記録】 第6回 臨床哲学フォーラム（あたらしい倫理学）

テーマ「『受容と回復のアート』を読む」

第6回臨床哲学フォーラム

- 「『受容と回復のアート』を読む」の記録 ほんま なほ (40)

【特集 2】 第7回臨床哲学フォーラム（シリーズ：ふるいにかけられる声を聞く）

テーマ「研究者になるということ：研究者と当事者のあいだで」

第7回臨床哲学フォーラム「研究者になるということ：研究者と当事者のあいだで」

- の特集にあたって 小西 真理子 (42)
研究者になるということ——研究者と当事者のあいだで 小松原 織香 (44)
質問1 「ガタつく『研究者』」 鈴木 萌花 (49)
質問2 「〈自分の問題〉との距離のとりかた」 吉田 裕香 (51)
質問3 「臨床哲学という学びの環境」 二宮 晃紀 (53)
質問4 「『カテゴリー』をめぐる問題について」 六郷 風志 (55)
小松原さんによる質問者への応答 小松原 織香 (57)

第7回臨床哲学フォーラムへの感想文①「『研究者になるということ：

研究者と当事者のあいだで』をお聞きして」木村 祐子 (63)

第7回臨床哲学フォーラムへの感想文②宮本 綾 (65)

【特集3】 第8回臨床哲学フォーラム（シリーズ：ふるいにかけられる声を聞く）

テーマ「狭間からの呼び声：まちなか相談室「風の舎」に集う人々」【院生企画】

第7回臨床哲学フォーラム「狭間からの呼び声：まちなか相談室「風の舎」に集う人々」

の特集にあたって六郷 颯志 (67)

不登校の制度的支援の現在：私的経験を交えて六郷 颯志 (70)

狭間からの呼び声——まちなか相談室「風の舎」に集う人々内村 公義 (78)

対談：自己病名は吉野大輔吉野 大輔×内村 公義 (84)

質疑応答内村 公義×吉野 大輔×六郷 颯志×会場のみなさま (90)

【特集4】 生き延びることの倫理：

非規範的なジェンダー・セクシュアリティとボールルーム・カルチャー

「生き延びることの倫理：非規範的なジェンダー・セクシュアリティと

ボールルーム・カルチャー」の特集にあたって高橋 綾 (96)

(解説) *Paris is Burning* とボールルーム・カルチャーほんま なほ・高橋 綾 (98)

パリはなおも燃えている

——ボールルーム・カルチャーと新たな親密圏／公共圏の生成魚住 洋一 (102)

ボールルーム・カルチャーとその表現をどう考えるか：

エージェンシーと文化運動高橋 綾 (122)

“わたしたちは いきのびなくともよいもの だった”ほんま なほ (131)

研究室主催イベント&アセンブリラーの記録 (152)

執筆者一覧 (154)